

令和 2 年北海道胆振東部地震厚真町追悼式 式辞

本日と明日の両日にわたり、令和 2 年胆振東部地震追悼式を挙げていただくにあたり、平成 30 年北海道胆振東部地震で犠牲となられた御霊に対して、町民を代表して謹んで哀悼の意を表します。

本来であれば、ご遺族並びにご来賓、震災尽力者の方々のご臨席のもと追悼式典形式で挙げるべきところですが、本年は世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の拡大防止を考慮した開催方式へと変更させていただきました。関係各位にはご理解くださるようお願い申し上げます。

本年は、厚真町においては春先から比較的穏やかな気候が続き、干ばつ気味ではありましたが、作況は豊作基調で推移しています。北海道胆振東部地震から 2 年の歳月が流れる中、基幹産業である農業においては、比較的順調に復旧が進すすんでいますが、震災により犠牲となられた皆さんのことは、町民皆等しく、ひと時たりとも脳裏を離れることはありません。

被災地や様々な出来事を通して皆さんの足跡をたどりながら、日常や夢、希望といった皆さんの人生が突然閉ざされた無常を想うとき、またご遺族の無念さや親交の深かった皆さんの決して癒えることのない悲しみの深さは、察するに余りあり、ここに改めて、犠牲になられた 37 名の皆様に衷心より哀悼の誠を捧げます。

これまでの慰霊式や追悼式の中で、ご遺族や私たち町民は、悲しみの中においても明日を切り開く決意を新たにしていまいりました。私たちが確かに引き継ぎ、皆さんが愛した厚真町の輝きを取り戻すべく、今まさに町民一丸となって懸命に復旧・復興を目指して、険しくて長い道のりを歩み始めています。一人一人の歩む速さは異なりますが、一人も取り残されることのないよう、お互いを気遣いながら、穏やかな日常を取り戻し、生業の復興を果たして参りたいとたゆまぬ努力を続けています。

そんな厚真町民の姿を、先立たれた皆さんはどう見ていただいていますか。志を引き継いで、生業の復興やコミュニティの再生、森林再生や災害に強い強靱でしなやかなまちづくり、次世代を育成し、厚真町の潜在力を耕しなおす、新たな挑戦を続けています。私たちには、傷ついたとはいえ先達が築き上げてきた生産基盤と DNA に刻まれたフロンティアスピリッツが受け継がれていますから、時はかかっても必ず期待に応えてまいります。

改めて申し上げるまでもなく、北海道胆振東部地震は決して風化させてはならない出来事であり、胆振東部を震源とするマグニチュード 6.7、震度 7 を記録した大地震により本町では未曾有の被害を受け、特に北部山間地を中心とした土砂災害により 36 人の尊い命が犠牲となりました。そして、関連死が 1

人と多くの犠牲者とともに住宅の全半壊、インフラや生産基盤への被害が全町に広がりました。犠牲者を出した幌内、富里、高丘、吉野、桜丘、朝日、幌里地区は、幾多の困難を協働の力で乗り越えてきた地域であり、厚真村開拓期から他の地域にもまして栄えていた地域であります。そこには、自然と共存しながらの豊かな生活と穏やかな人々の暮らしがありました。一人一人の力は小さくとも、地域が助け合い、地道な努力を繰り返し積み重ねることで、先達は今日の繁栄を成し遂げてきました。紡いだ地域の歴史と伝統、そして受け継がれた家族の願いをこれからも忘れません。

発災から時が経過する中で、国の直轄砂防工事は応急から本格工事へ、国営かんがい排水直轄災害復旧、急傾斜地砂防工事、治山工事、その他公共土木施設災害復旧工事、農地・宅地堆積土砂排除工事及び統合浄水場など北海道や厚真町施工の災害復旧工事も関係者のご理解とご尽力により順調に進捗しており、統合浄水場は 8 月より全区域に給水を再開しています。一方で、まだ多くの方が仮設住宅、被災住宅等でご不便な生活を余儀なくされておりますが、恒久的住宅対策については、災害公営住宅建設など今後も災害救助法の適用期限を見据えた取り組みに万全を期してまいります。また、対策が急がれる宅地耐震化事業についても、当該地区住民のご理解を前提に、今後とも住民本位で工事を進めてまいります。このほか防災拠点施設整備、公共施設の再編整備、森林再生・林業復旧などまだまだ多くの課題は残されておりますが、令和の時代とともに、新しい厚真町を築いていくロードマップとして本年度中に第 3 期厚真町復旧復興計画を策定し、復旧・復興を着実に推進し、その道の先にある厚真町再生の歴史を全ての世代と力を合わせて丁寧につづけてまいりたいと願っています。

北海道全域に多大な損害を与えた北海道胆振東部地震でしたが、毎年のように繰り返される大規模洪水・台風災害、千島列島・日本海溝型地震や南海トラフ地震の警鐘など、災害列島に住む私たちは、災害に備えることを日常とする防災意識社会を目指していく必要があります。自然災害、国際紛争、未知の感染症など幾度となく訪れる危機に、文明社会の真価が試されているかのようです。

発災以来、捜索活動や応急活動にご尽力いただいた多くの関係機関の皆様、これまでの避難生活を支えてくださったたくさんの支援者、復旧事業を推進していただいている様々な分野のエキスパートの皆さんなど、頑張っている厚真町民の応援団が大勢います。そうした関係者の皆さんに改めて衷心より感謝申し上げますとともに、お寄せいただいた温かい激励の思いと新しい絆に応じて、私たちは今再び、厚真町を決して悲しいまちで終わらせない決意を新たにしています。一人がみんなのために、みんなが一人のために気遣い、力を結集することで、震災で犠牲になられた方々から託された郷土厚真を再生し、必ずやこの苦難を乗り越えてまいりますことを、ここにお誓い申し上げます。

結びに、犠牲となられた37名の御霊が永遠に安らかならんことをお祈り申し上げますとともにご遺族の皆様のご平安とご健勝を心から祈念し、式辞といたします。

令和2年9月5日

厚真町長 宮坂尚市朗